

由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会

第 15 回資料

(伊佐津川水系の概要及び現状と課題)



伊佐津川の二ツ橋付近より
上流を望む

平成 23 年 9 月 17 日

京 都 府

目 次

1. 伊佐津川水系の概要	
位置・諸元	1
地形・地質	2
気象	3
植生・自然公園	4
動物・魚類	5
人口・産業	6
土地利用	7
交通・河川利用	8
歴史・文化	9
2. 治水に関する現状と課題	
浸水被害状況	10
治水事業の経緯	11
河川情報の提供・沿川の土地利用	12
3. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能に関する現状と課題	
水辺利用	14
利水・水質	15
4. 河川環境に関する現状と課題	16

1. 伊佐津川水系の概要（位置・諸元）

位置図

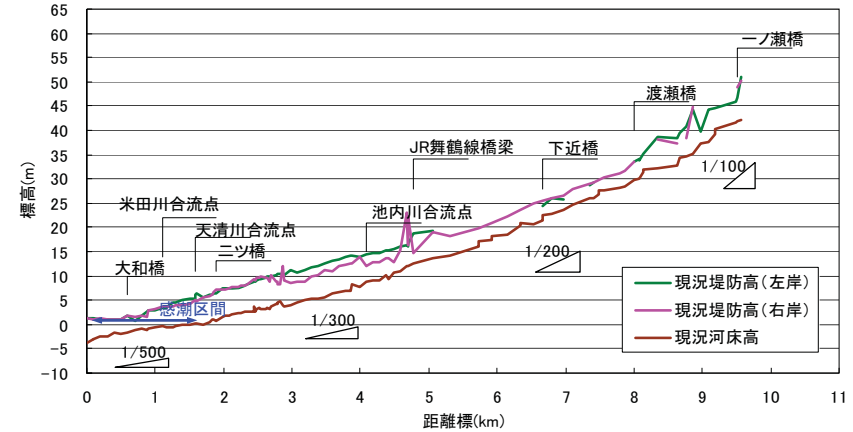


No.	河川名			流域面積 (km ²)	河川延長 (m)
	本川	一次支川	二次支川		
1	伊佐津川			32.8	17.0
2		米田川		2.7	1.6
3		天清川		5.1	2.1
4		池内川		18.6	9.9
5			青谷川	4.7	1.4
6			池の内下川	3.8	1.0
7			寺田川	7.3	2.4
合計				75.0	35.4

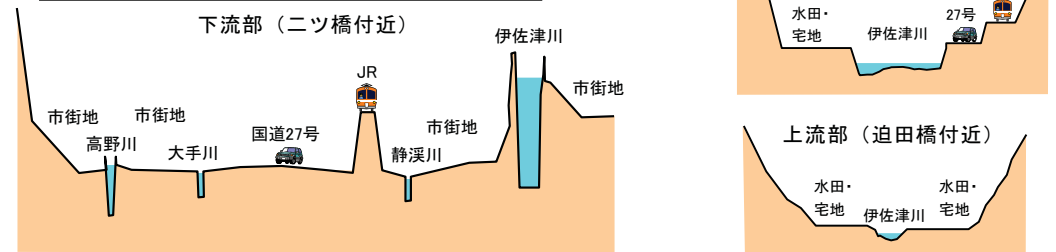


出典：1/25,000 地形図 国土地理院

伊佐津川の縦断図（舞鶴市域）



伊佐津川の横断図（イメージ）



<流域の概要>

■伊佐津川は、その源を弥仙山（標高664m）に発し、綾部市を西へ流れた後、流れを大きく変えて北流し、舞鶴市西地区の市街地を貫流して舞鶴湾に注ぐ、幹川流路延長約17.0km、流域面積約75km²の二級河川である。

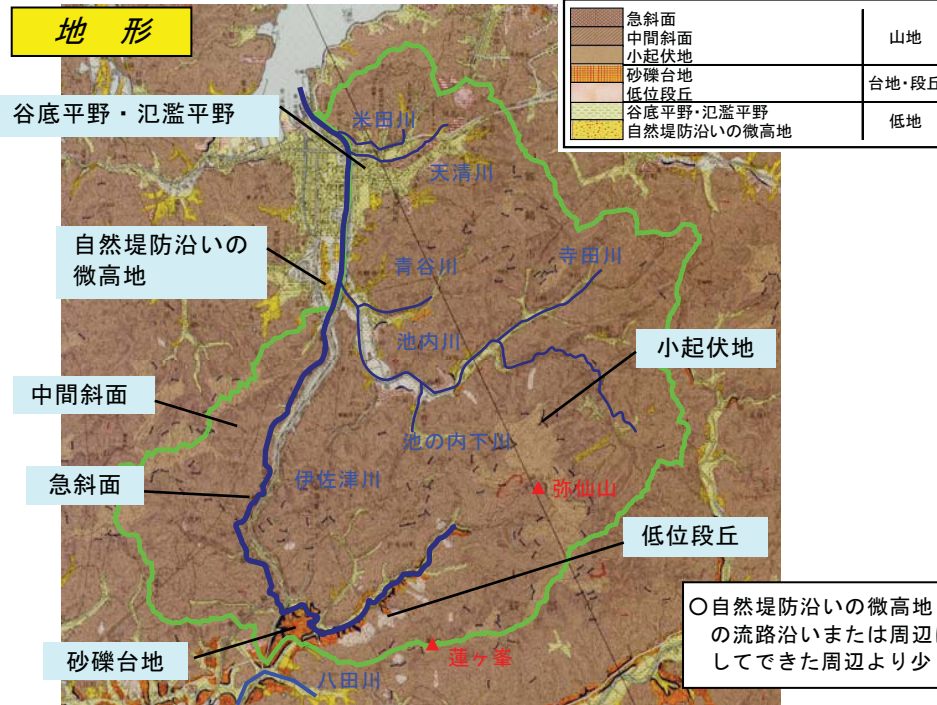
<縦断勾配>

■伊佐津川の河床勾配は、上流部（綾部市域）は1/50、中流部（舞鶴市域上流）は1/100と急勾配であるが、下流部の市街地では1/500と緩くなり、舞鶴湾の潮汐が影響を与える感潮区間は、天清川合流点付近（河口から1.6km）まで及ぶ。

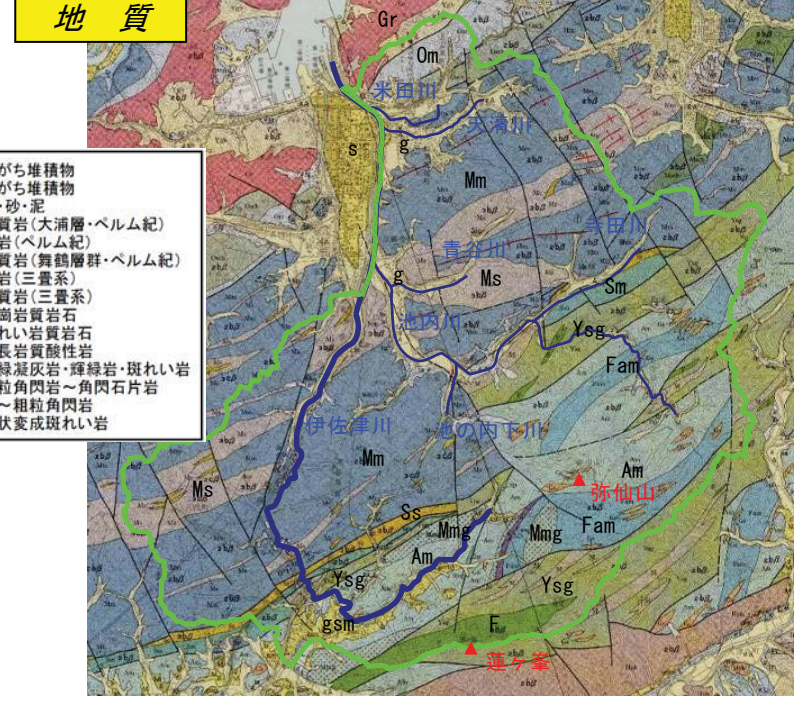
<横断形状>

■上流部及び中流部は掘込み河道であり、下流部は左岸が築堤である。下流部の左岸築堤部は、平均的な川底と堤内側宅地の地盤に高低差が殆ど無く、天井川的な形状であり、左岸側には、舞鶴市西地区の市街地が広がっている。

1. 伊佐津川水系の概要（地形・地質）



出典：土地分類図(京都府)昭和62年



出典：土地分類図(京都府)昭和62年

弥仙山・蓮ヶ峯を結ぶ尾根に源を發し、見内川を合わせて流れる伊佐津川は、以前は八田川につながって由良川に注いでいたと思われる。舞鶴湾に注ぐ伊佐津川は黒谷の峡谷を深く刻みこんで、やがて八田川の上流にあたる於与岐の谷の流域を奪って、伊佐津川の流域にとり込んでしまった。

伊佐津川が黒谷で深い峡谷をなしているのは、付近の山地が隆起していくのに対して、伊佐津川が谷底を下刻する力が隆起量に打ち勝ったためである。その結果、伊佐津川が山脈を横切るような形になったのであろう。(綾部市史より)

<地形>

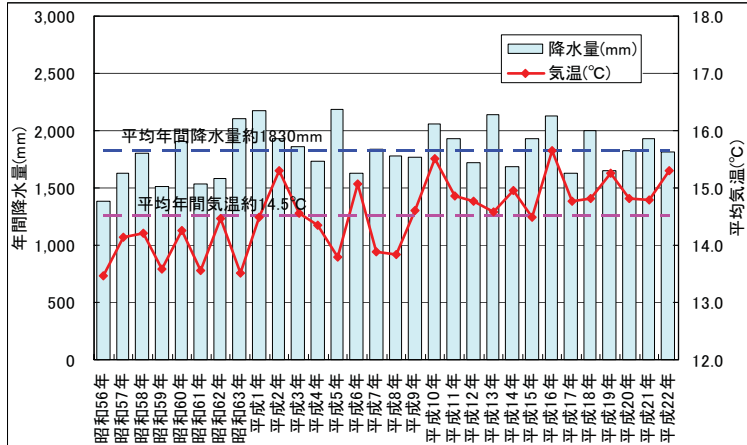
■流域の大部分を山地が占めている。中流域の伊佐津川と池内川の合流点付近は、「自然堤防沿いの微高地」が見られ、洪水時に土砂の堆積が生じやすい。下流域は「谷底平野・氾濫平野」が広がっており、河川洪水や内水氾濫のほか、最下流の沿岸部では高潮による浸水の可能性がある。

<地質>

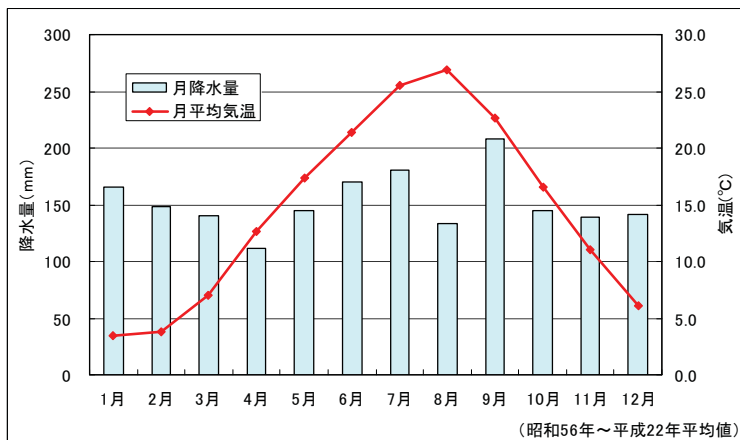
■流域の大部分を泥質岩(Om・Mm・Sm)が占め、上流域は梅迫層と呼ばれる主に礫・砂・泥の層(gsm)が伊佐津川本川に沿って分布している。中流域は礫がち堆積物が分布し、下流域は砂がち堆積物が広がっている。

1. 伊佐津川水系の概要（気候）

年間降水量と平均気温の推移（舞鶴海洋気象台）



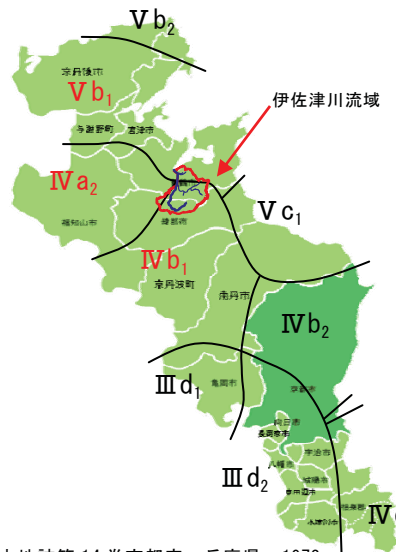
月合計降水量と月平均気温（舞鶴海洋気象台）



出典：気象庁アメダスデータより作成

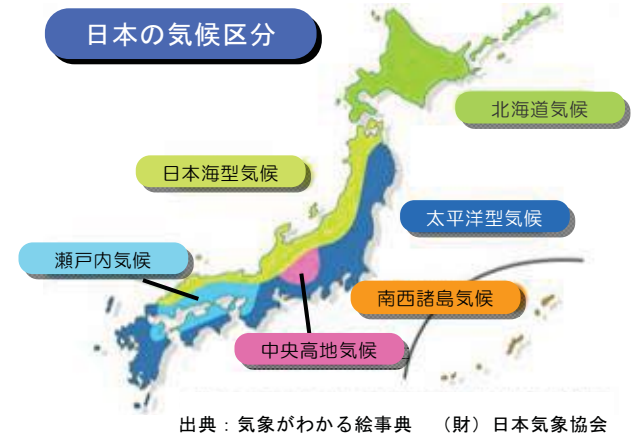


京都の気候区分



出典：日本地誌第14巻京都府・兵庫県 1973

日本の気候区分



Vb₁・・・丹後半島の大部分と舞鶴湾沿岸域。冬の気温は比較的高く、平均値では京都盆地と同じである。降水量は冬を主にして多く、とくに丹後半島南部では2,000mmを超える年総量があり、積雪量も多い。しかし、舞鶴湾沿岸では雪も少な目である。

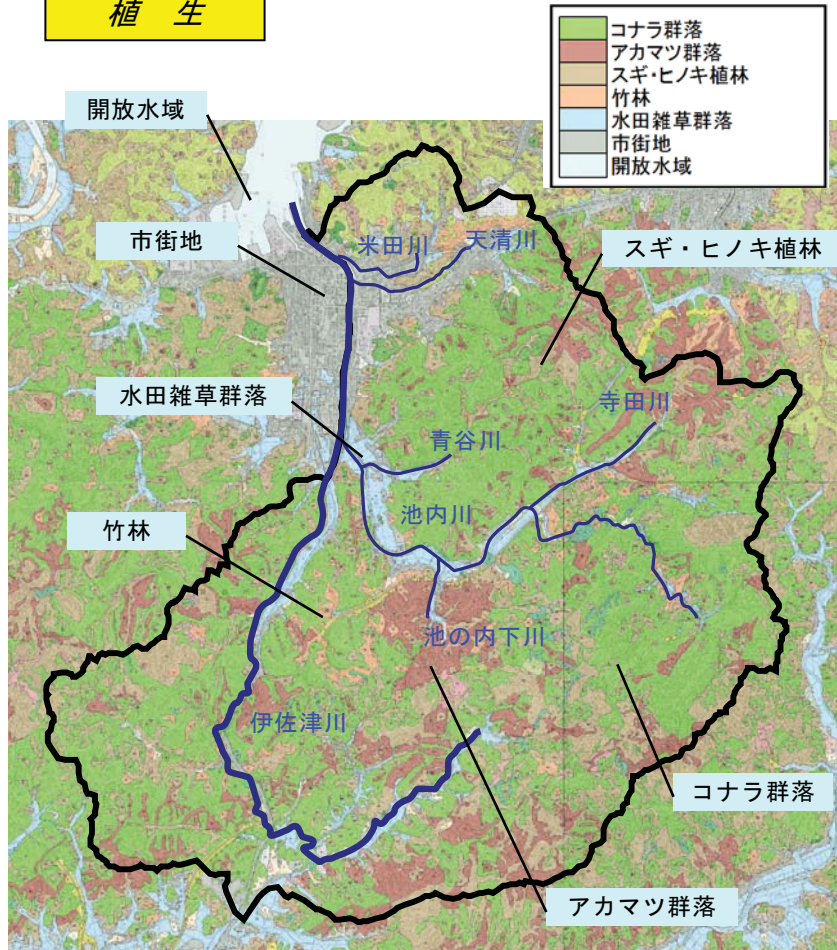
IVa₂・・・福知山盆地。丹波高原の気候で内陸的な特性がもっと著しい。暑さ・寒さともきびしい。冬は日本海側から時おり雪雲が流れてきて降雪がある。曇った日には朝の冷込みも和らげられるが、晴れた早朝には著しく低温となる。降水量は冬の日本海側の天気の影響を受けて、南部よりは多く1,600mm~1,700mm程度である。

IVb₁・・・由良川上流の山地域。典型的な丹波高原の気候である。海拔高度との関係もあって夏は比較的低温であり、また年平均気温も14℃以下である。冬の気温はかなり低い。降水量は年平均では1,600~1,700mmで、京都府の中では中位にある。真夏の降水量が少ないかわり、秋にやや多くなる傾向があり、またときとしてかなりの大雨があるなど、降り方にむらがある。

■気候は冬期に降水量が多い日本海型気候区に属し、年間降水量は約1,830mmと、全国の年平均降水量(約1,720mm)と比較して若干多い。年平均気温は約14.5℃であり、夏期平均気温は25℃程度、冬期平均気温は5℃程度である。舞鶴湾沿岸域での冬の気温は比較的高いため、府内の日本海側地域に比べ積雪量は少ないが、山地域においては冬の気温は低く積雪も多くなる。

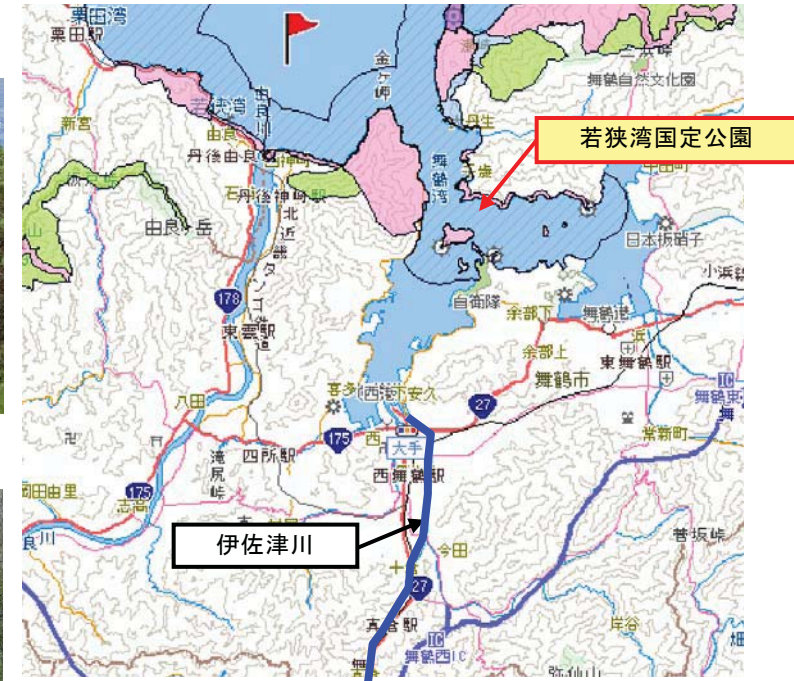
1. 伊佐津川水系の概要（植生、自然公園）

植生



出典：第6、7回自然環境保全基礎調査 環境庁 平成21年

自然公園指定状況



出典：京都府・市町村共同 統合型地理情報システム HP

特別保護地区	原生状態を維持する必要がある地域
第1種特別地域	現在の景観を極力維持する必要がある地域
第2種特別地域	農林漁業活動について調整を図ることが必要な地域
第3種特別地域	通常の農林漁業活動については原則容認する地域
普通地域	特別地域の風景維持のための緩衝地帯として必要な地域



アカマツ
(日本の樹木 山と溪谷社)



コナラ
(日本の樹木 山と溪谷社)

<植生>

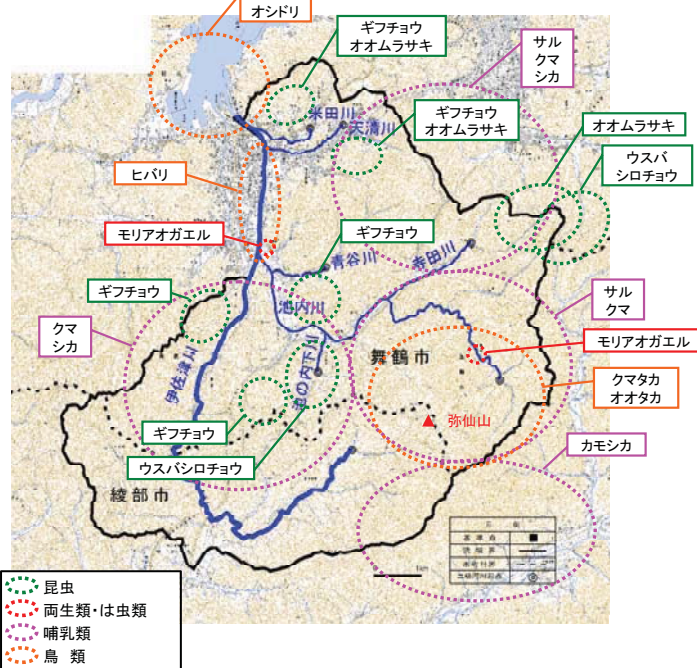
■流域の広い範囲でコナラ群落やアカマツ群落が分布している。その他、上流部には竹林が見られ、下流部にはスギ・ヒノキ植林などが見られる。

<自然公園指定状況>

■伊佐津川が流入する舞鶴湾は、半島と湾入を繰り返す複雑な湾岸線を持つリアス式海岸が形成され、若狭湾^{わかさわん}国定公園に指定されている。

1. 伊佐津川水系の概要（動物、魚類）

動物

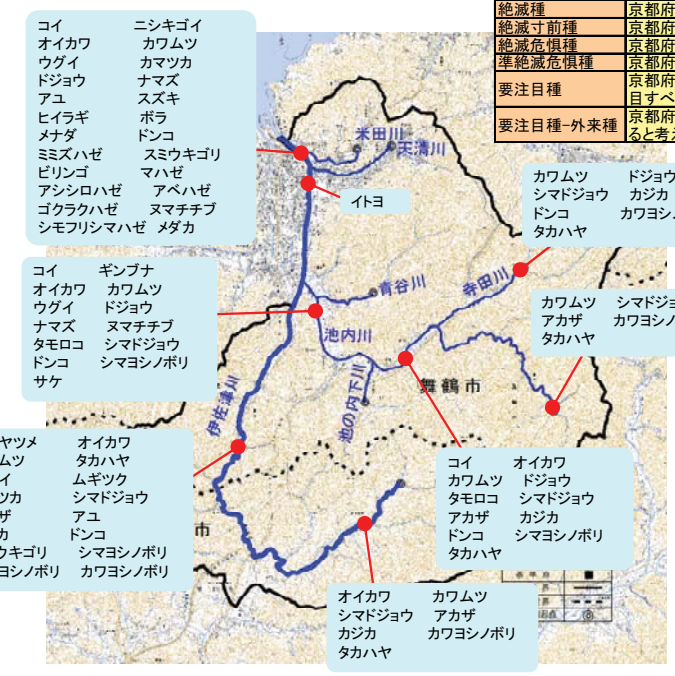


昆虫・哺乳類（京都府動植物分布図 京都府 平成元年）
 両生類・は虫類（第2回自然環境保全基礎調査 環境庁 昭和57年、舞鶴ミュージアムマップ解説書 平成11年）
 鳥類（舞鶴の守りたい自然 舞鶴市 平成20年、舞鶴ミュージアムマップ解説書 平成11年）

魚類



魚類



出典：河川水辺の国勢調査（魚介類調査） 京都府 平成12年・平成17年・平成22年、京都府動植物分布図 京都府 平成元年

京都府レッドデータブック（RDB）カテゴリー

区分	基本的概念
絶滅種	京都府内ですでに絶滅したと考えられる種
絶滅寸前種	京都府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧種	京都府内において絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧種	京都府内において存続基盤が脆弱な種
要注目種	京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種
要注目種-外来種	京都府内において生態系に特に悪影響を及ぼしていると考えられる種で、今後の動向を注目すべき外来種



アカザ※1



ゴクラクハゼ※4

<動物>

- 昆虫は、ギフチョウ〔環：絶滅危惧II類（VU）、府：準絶滅危惧種〕やオオムラサキ〔環：準絶滅危惧（NT）、府：準絶滅危惧種〕などが確認されている。
- 支川の池内川では、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオ〔環：準絶滅危惧（NT）、府：絶滅危惧種〕やアベサンショウウオ〔環：絶滅危惧IA類（CR）、府：絶滅寸前種〕の他、カジカガエル、モリアオガエルなどが確認されている。
- 哺乳類は、カモシカ〔府：準絶滅危惧種〕などが確認されている。
- 鳥類は、クマタカ〔環：絶滅危惧IB類（EN）、府：絶滅危惧種〕、オオタカ〔環：絶滅危惧II類（VU）、府：絶滅危惧種〕が弥仙山周辺地域で確認され、ミサゴ〔環：準絶滅危惧（NT）〕、オシドリが河口周辺地域で確認されている。また、支川の池内川では、カワガラスが確認されている。

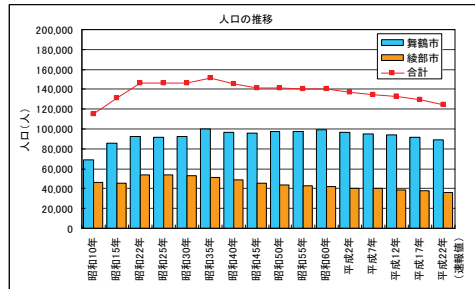
<魚類>

- 伊佐津川流域では、ゴクラクハゼ〔府：絶滅危惧種〕、スナヤツメ〔環：絶滅危惧II類（VU）、府：絶滅危惧種〕、アカザ〔環：絶滅危惧II類（VU）、府：絶滅危惧種〕、シロウオ（イサザ）〔環：準絶滅危惧（NT）、府：準絶滅危惧種〕など多数の魚類が確認されている。

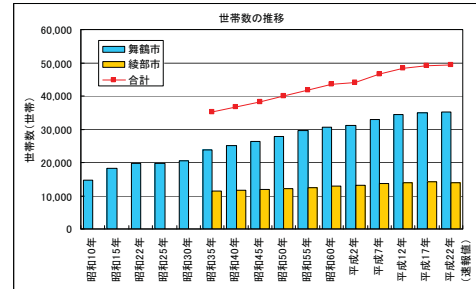
1. 伊佐津川水系の概要（人口・産業）

人口

人口世帯数の推移



出典：舞鶴市統計書、あやべ統計書

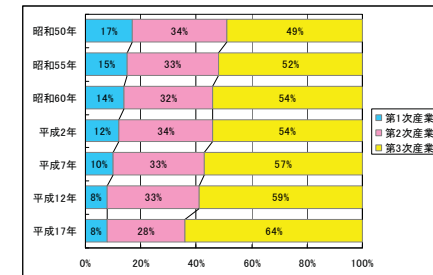


関係市の位置



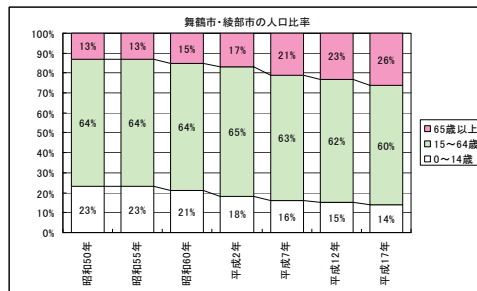
産業

産業分類別就業者数比率（舞鶴市・綾部市集計）

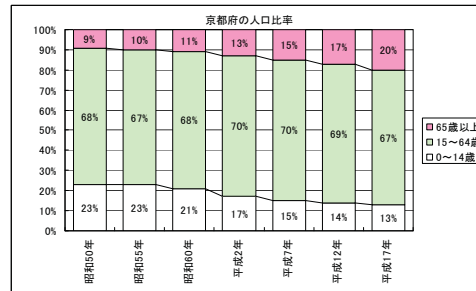


出典：舞鶴市統計書、あやべ統計書

年齢別人口比率（舞鶴市・綾部市集計）



出典：総務省統計局 HP



<人口>

■流域にある市の人口は、昭和35年以降緩やかに減少しており、平成22年時点では約13万人（舞鶴市9万人、綾部市4万人）である。年齢別階層の65歳以上の比率は平成17年で26%（京都府20%）であり、高齢化の進行は著しいと言える。

<産業>

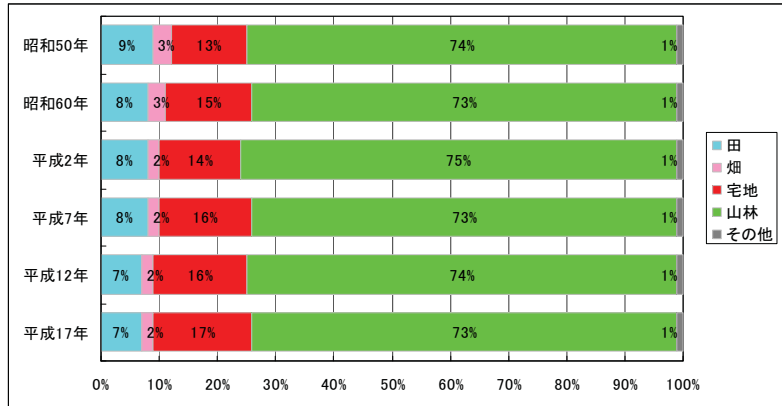
■産業分類別就業者数は、平成17年では第1次産業が約8%、第2次産業が約28%、第3次産業が約64%である。経年的に見ると、第1次産業と第2次産業が減少し、第3次産業が増加している。

■主な産業は、舞鶴市で第2次産業の製造業、綾部市で第3次産業の卸・小売業である。

■舞鶴西港の歴史は古く、安土桃山時代に田辺城下町と共に交易の中心として発展してきており、現在は港則法上の特定港「京都府舞鶴港」に指定され、国際貿易港として大きな役割を果たしている。

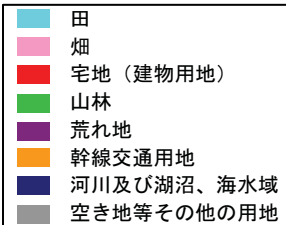
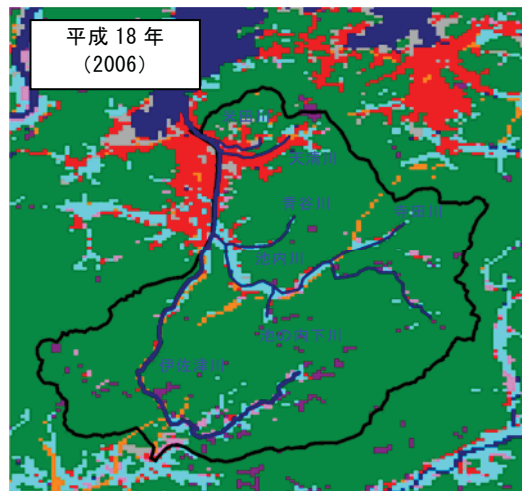
1. 伊佐津川水系の概要（土地利用）

地目別土地面積比率（舞鶴市・綾部市集計）

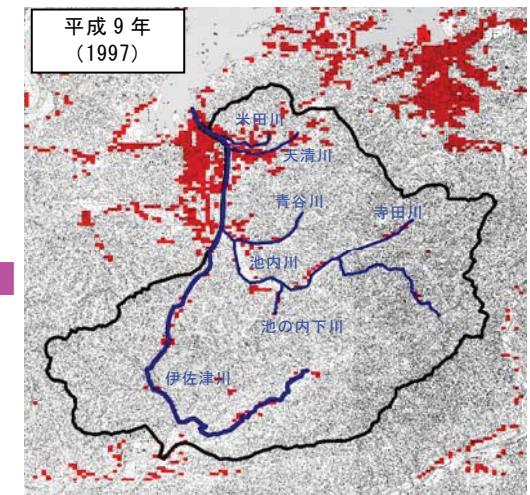
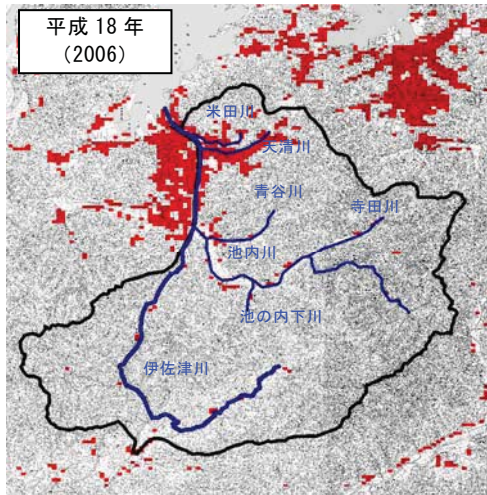
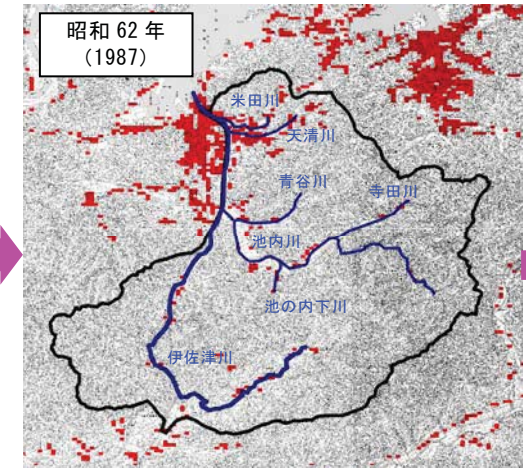
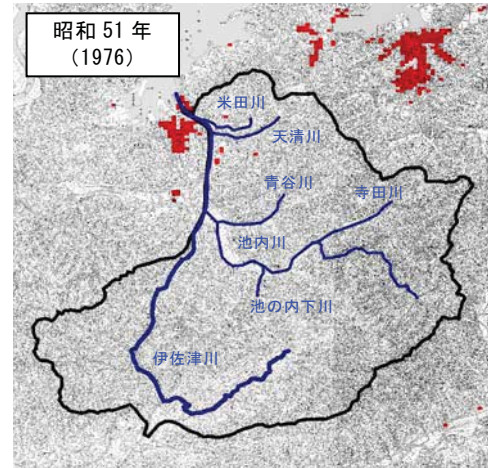


出典：舞鶴市統計書、あやべ統計書

現在の土地利用状況



市街地の変遷



出典：「国土数値情報 国土交通省」より作成

■流域の大部分を山林が占めており、地目別の土地面積比率は平成17年で山林が約73%、田畑約9%、宅地は約17%である。経年的に見ると、田畑が減少し、宅地が増加している。特に伊佐津川と池内川合流点から下流は、昭和51年以降に宅地造成等の開発が進み、市街地が拡大している。